英語教育史重要文献集成　第Ⅰ期・全5巻

［監修・解題］江利川 春雄　和歌山大学教育学部教授・日本英語教育史学会会長　A5判上製・カバー装

揃定価：本体75,000円＋税　ISBN978-4-8433-5291-5 C3382　2017年9月刊行予定

各巻の構成

●第1巻● 小学校英語	定価：本体19,000円＋税	ISBN978-4-8433-5292-2 C3382
●第2巻● 英語教授法 1	定価：本体 8,000円＋税	ISBN978-4-8433-5293-9 C3382
●第3巻● 英語教授法 2	定価：本体20,000円＋税	ISBN978-4-8433-5294-6 C3382
●第4巻● 英語教授法 3	定価：本体15,000円＋税	ISBN978-4-8433-5295-3 C3382
●第5巻● 英語教育史研究	定価：本体13,000円＋税	ISBN978-4-8433-5296-0 C3382

本書の特色

◆日本の英語教育史において欠くことのできない重要文献のうち、特に今日的な示唆に富むものを精選して復刻。

◆様々な教材や教授法が工夫されており、今日読んでも驚嘆すべきものを厳選。

◆各巻末には監修者による詳細な解説を附す。

◆どの文献も国立国会図書館デジタルコレクションで電子化されておらず、所蔵する図書館も僅少で、入手や閲覧が困難な文献を収録。

◆第Ⅱ期は、2018年春頃の刊行を予定。

関連企画のご案内　※詳細なパンフレットを差し上げます。弊社営業部までお申し込み下さい。

19世紀英語辞典復刻集成
［監修］永嶋大典　全11巻　●揃定価：本体380,000円＋税
英・米の英語辞書史中、顕著な特色を持った稀覯辞書を網羅集成。

近代英学特殊辞書集成
［監修］出来成訓　全3巻　●揃定価：本体96,000円＋税（分売不可）
近代日本語にも大きな影響を与えた「特殊辞書」を復刻集成。

基礎知識辞典 20世紀クロノペディア
—新英単語で読む100年—［著］J・エイト 著　待望のオックスフォード版・現代用語辞典。本邦初訳。　●定価：本体3,800円＋税

サミュエル・ジョンソン百科事典
［著］パット・ロジャース 永嶋大典 監訳 ●定価：本体15,000円＋税
時代を把握する読み物としても充分面白く読める、画期的な事典。

近代日本 英語・英米文学書誌
書誌書目シリーズ 39　全7巻　●揃定価：本体84,000円＋税
英語学・英米文学に関する書目・解題を選出、内容別・年代順に編纂。

新版 蘭和・英和辞書発達史
付・英語辞書史年表　書誌書目シリーズ 42　［著］永嶋大典
各辞書の有機的発展を書誌学的に実証。　●定価：本体8,000円＋税

ゆまに書房
YUMANI SHOBOU
〒101-0047
東京都千代田区内神田2-7-6
TEL.03(5296)0491
FAX.03(5296)0493
http://www.yumani.co.jp/
e-mail eigyou@yumani.co.jp

●特におすすめしたい方●　英語学や英語教育の研究者、小学校、中学、高校、大学、カルチャースクールなどで英語教育に携わっている方や、関係研究機関、大学図書館など。

ご注文書

ゆまに書房　Tel.03(5296)0491／Fax.03(5296)0493　年　月　日

英語教育史重要文献集成　第Ⅰ期・全5巻
●揃定価：本体75,000円＋税
ISBN978-4-8433-5291-5 C3382
セット

お名前

ご住所
TEL　(　　)

取扱店

17.08/01.7000.RS

英語教育史
重要文献集成

第Ⅰ期・全5巻

［監修・解題］**江利川 春雄**　和歌山大学教育学部教授・日本英語教育史学会会長

明治期から敗戦直後まで、

70年以上にわたって培われてきた

英語教育研究のエッセンス。

今こそ読まれるべき、

入手・閲覧困難な文献を多数収録。

ゆまに書房

刊行にあたって

江利川 春雄

2017年3月に告示された新学習指導要領によって、小学校３年生から外国語活動を実施し、５年生からは正式教科として外国語（英語）を教えることになった。グローバル化への対応策として、国を挙げて英語教育を強化しようとしているのである。

だが、英語教育の未来を拓くためには、先人たちの過去の奮闘から謙虚に学ぶ必要がある。たとえば、小学校での英語教育は明治中期から敗戦直後まで60年以上実施されており、日本の子どもにふさわしい様々な教材や教授法が工夫されてきた。中等学校の英語教授法はさらに進化を遂げ、今日読んでも驚嘆すべきものが少なくない。歴史の闇に埋もれさせるには、あまりに惜しい。

そこで、この「英語教育史重要文献集成」では、日本の英語教育史において欠くことのできない重要文献のうち、特に今日的な示唆に富むものを精選して復刻することにした。いずれも国立国会図書館デジタルコレクションで電子化されておらず、所蔵する図書館も僅少な、入手や閲覧が困難な文献である。

第１巻は、明治末期に文部省が刊行した小学校用国定英語読本（全３巻）と、教師用指導書から成る。後者は、英語指導に自信のない小学校教員に対して、懇切丁寧に指導法を述べたものである。小学校の英語教育が本格実施される今こそ読み直したい。

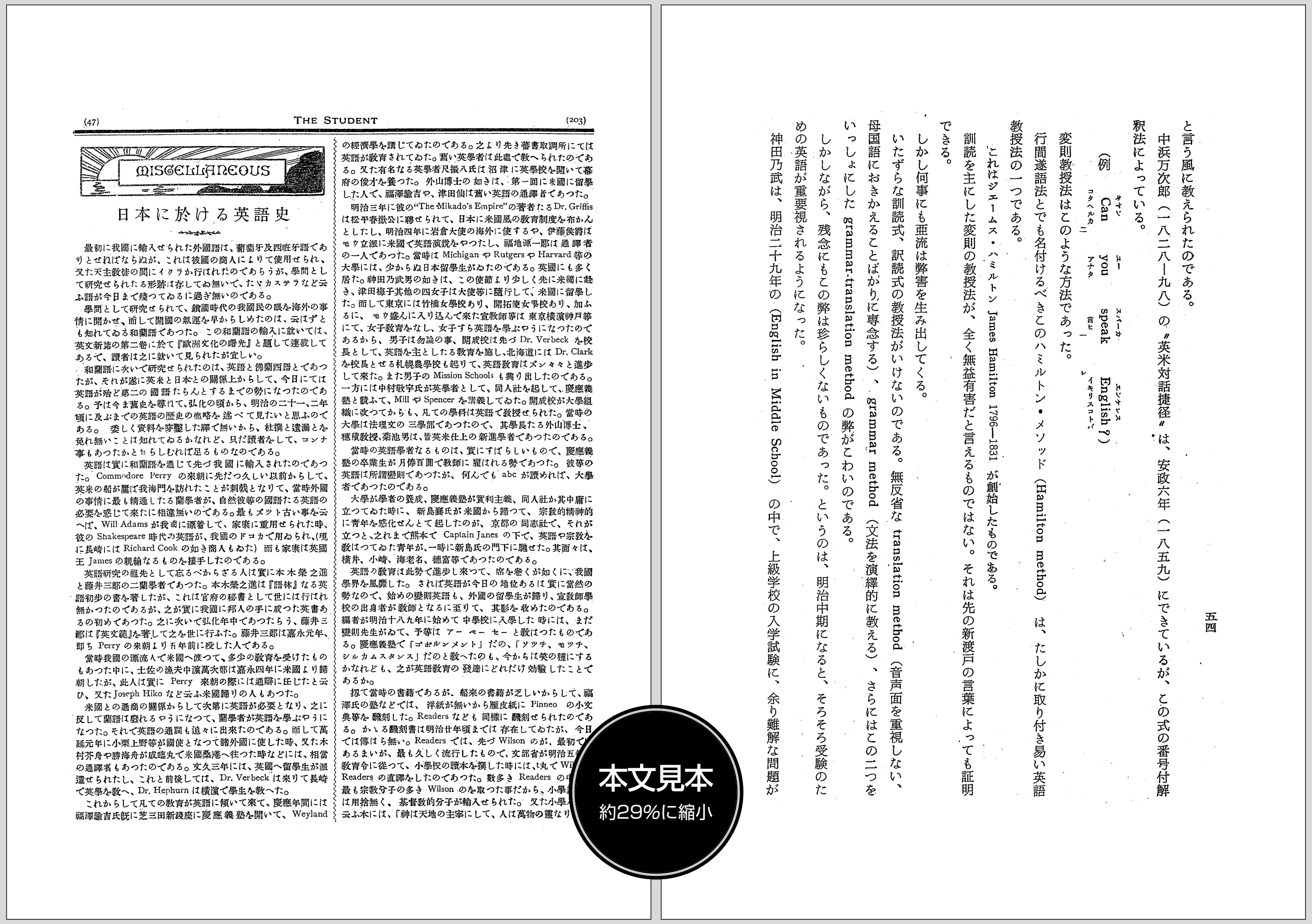
第２巻のマーセル著・吉田直太郎訳『外国語研究法』は、1887（明治20）年に刊行された日本初の英語教授法・学習法書であり、全国の図書館が未所蔵の超レア本である。

第３巻で復刻した柰田與惣之助（まつだよそのすけ）著『英語教授法集成』（1928）は、戦前における最も包括的な英語教授法書だが、手書き謄写刷の非売品のため、現在10冊ほどが確認できるだけの幻の名著である。

第４巻は、戦前の英語教授法研究の到達点を示す７篇の文献を集成した。1930〜40年代の戦時体制下でも、英語教育関係者らは敗戦直前まで理論と実践を研ぎ澄ましていったことがわかる。

第５巻は、明治以降の英学史・英語教育史研究に関わる重要文献７篇を集めた。とりわけ花園兼定著「明治英学史」は、太平洋戦争下の雑誌に21回連載され、著者の急逝によって絶筆となった幻の英学史研究で、文化史的な価値がきわめて高い。

幕末以降の先人たちは、日本語とは言語系統がまったく異なる英語と格闘し、日本人にふさわしい英語教材や教授法を開拓してきた。それらは、今後の英語教育に幾多のヒントを与えてくれる。歴史は知恵の宝庫である。そのことを、本復刻シリーズは再確認させてくれるであろう。活用を願ってやまない。



(47)　THE STUDENT　(203)

MISCELLANEOUS

日本に於ける英語史

最初に我國に輸入せられた外國語は、葡萄牙及西班牙語でありとせればならぬが、これは彼國の商人によりて使用せられ、又た天主教徒の間にイクラか行はれたのであらうが、學問として研究せられたる形跡は存してゐ無いで、たゞカステラなど云ふ語が今日まで殘つてゐるに過ぎ無いのである。

學問として研究せられて、鎖國時代の我國民の眼を海外の事情に開かせ、而して開國の氣運を早からしめたのは、云はずとも知れてゐる和蘭語であつた。この和蘭語の輸入に就いては、英文新誌の第二卷に於て『歐洲文化の曙光』と題して連載してあるて、讀者は之に就いて見られたが宜しい。

和蘭語に次いで研究せられたのは、英語と佛蘭西語とであつたが、それが遂に英米と日本との關係上からして、今日にては英語が殆ど第二の國語たらんとするまでの勢になつたのである。予は今ま舊史を尋ねて、弘化の頃から、明治の二十一、二年頃に及ぶまでの英語の歷史の概略を述べて見たいと思ふのである。委しく資料を穿鑿した譯で無いから、杜撰と遺漏とを免れ無いことは知れてゐるかなれど、只だ讀者をして、コンナ事もあつたかと知らしむれば足るものなのである。

英語は實に和蘭語を通じて先づ我國に輸入されたのであつた。Commodore Perry の來朝に先だつ久しい以前からして、英米の船が屢ば我海門を訪れたことが刺戟となりて、當時外國の事情に最も精通したる蘭學者が、自然彼等の國語たる英語の必要を感じて來たに相違無いのである。最もズツト古い事を云へば、Will Adams が我國に漂着して、家康に重用せられた時、彼の Shakespeare 時代の英語が、我國のドコカで用ゐられ、(現に長崎には Richard Cook の如き商人もゐた) 而も家康は英國王 James の親翰なるものを接手したのである。

英語研究の祖先として忘るべからざる人は實に本木榮之進と藤井三郎の二蘭學者であつた。本木榮之進は『語林』なる英語初步の書を著したが、これは官府の秘書として世には行はれ無かつたのであるが、之が實に我國に邦人の手に成つた英書あるの初めてあつた。之に次いで弘化年中であつたらう、藤井三郎は『英文範』を著して之を世に行ふた。藤井三郎は嘉永元年、即ち Perry の來朝より五年前に歿した人である。

當時我國の漂流人で米國へ渡つて、多少の教育を受けたものもあつた中に、土佐の漁夫中濱萬次郎は嘉永四年に米國より歸朝したが、此人は實に Perry 來朝の際には通辯に任じたと云ひ、又たJoseph Hiko など云ふ米國歸りの人もあつた。

米國との通商の關係からして次第に英語が必要となり、之に反して蘭語は廢れるやうになつて、蘭學者が英語を學ぶやうになつた。それで英語の通詞も追々に出來たのである。而して萬延元年に小栗上野等が國使となつて諸外國に使した時、又た木村芥舟や勝海舟が咸臨丸で米國桑港へ往つた時などには、相當の通譯者もあつたのである。文久三年には、英國へ留學生が派遣せられたし、これと前後しては、Dr. Verbeck は來りて長崎で英學を教へ、Dr. Hephurn は橫濱で學生を教へた。

これからして凡ての教育が英語に傾いて來て、慶應年間には福澤諭吉氏既に芝三田新錢座に慶應義塾を開いて、Weyland の經濟學を講じてゐたのである。之より先き蕃書取調所にては英語が教育されてゐた。舊い英學者は此處で教へられたのである。又た有名なる英學者尺振八氏は沼津に英學校を開いて幕府の俊才を養つた。外山博士の如きは、第一回に米國に留學した人で、福澤諭吉や、津田仙は舊い英語の通譯者であつた。

明治三年に彼の"The Mikado's Empire"の著者たるDr. Griffisは松平春嶽公に聘せられて、日本に米國風の教育制度を布かんとしたし、明治四年に岩倉大使の海外に使するや、伊藤侯爵はモウ立派に米國で英語演說をやつたし、福地源一郎は通譯者の一人であつた。當時は Michigan や Rutgers や Harvard 等の大學には、少からぬ日本留學生がゐたのである。英國にも多く居た。神田乃武男の如きは、この使節より少しく先に米國に赴き、津田梅子其他の四女子は大使等に隨行して、米國に留學した。而して東京には竹橋女學校あり、開拓使女學校あり、加ふるに、モウ盛んに入り込んで來た宣教師等は東京橫濱神戶等にて、女子教育をなし、女子すら英語を學ぶやうになつたのであるから、男子は勿論の事、開成校は先づ Dr. Verbeck を校長として、英語を主としたる教育を施し、北海道には Dr. Clark を校長とせる札幌農學校も起りて、英語教育はズン々と進步して來た。また男子の Mission Schools も興り出したのである。一方には中村敬宇氏が英學者として、同人社を起して、慶應義塾と競ふて、Mill や Spencer を講義してゐた。開成校が大學組織に改つてからも、凡ての學科は英語で教授せられた。當時の大學は法理文の三學部であつたので、其學長たる外山博士、穗積教授、菊池男は、皆英米仕上の新進學者であつたのである。

當時の英語學者なるものは、實にすばらしいもので、慶應義塾の卒業生が月俸百圓で教師に雇はれる勢であつた。彼等の英語は所謂變則であつたが、何んでも abc が讀めれば、大學者であつたのである。

大學が學者の養成、慶應義塾が實利主義、同人社か其中庸に立つてゐた時に、新島襄氏が米國から歸つて、宗教的精神的に青年を感化せんとて起したのが、京都の同志社で、それが立つと、之れまで熊本で Captain Janes の下で、英語や宗教を教はつてゐた青年が、一時に新島氏の門下に馳せた。其面々は、橫井、小崎、海老名、德富等であつたのである。

英語の教育は此勢で進步し來つて、席を卷くが如くに、我國學界を風靡した。されば英語が今日の地位あるは實に當然の勢なので、始めの變則英語も、外國の留學生が歸り、宣教師學校の出身者が教師となるに至りて、其影を收めたのである。編者が明治十八九年に始めて中學校に入學した時には、まだ變則先生がゐて、予等は アー ベー セー と教はつたものである。慶應義塾で「ゴボルンメント」だの、「ソツチ、モツチ、シルカムスタンス」だのと教へたのも、今からは笑の種にするかなれども、之が英語教育の發達にどれだけ効驗したことであるか。

扨て當時の書籍であるが、船來の書籍が乏しいからして、福澤氏の塾などでは、洋紙が無いから雁皮紙に Pinneo の小文典等を飜刻した。Readers なども同樣に飜刻せられたのである。かゝる飜刻書は明治廿年頃までは存在してゐたが、今日
では傳はら無い。Readers では、先づ Wilson のが、最初で
あるまいが、最も久しく流行したもので、文部省が明治五年
教育令に從つて、小學校の讀本を撰した時には、丸で Wi
Readers の直譯をしたのであつた。數多き Readers の中
最も宗教分子の多き Wilson のを取つた事だから、小學
は用捨無く、基督教的分子が輸入せられた。又た小學
云ふ本には、「神は天地の主宰にして、人は萬物の靈なり

五四

と言う風に教えられたのである。

中浜万次郎（一八二八―九八）の〃英米対話捷径〃は、安政六年（一八五九）にできているが、この式の番号付解釈法によっている。

（例　Can（キヤン）　you（ユー）　speak（スペーカ）　English（エンゲレス）?）

（コタヘルカ　ニ　アナタ　言ヒ　イギリスコトバ）

変則教授法はこのような方法であった。

行間遂語法とでも名付けるべきこのハミルトン・メソッド（Hamilton method）は、たしかに取り付き易い英語教授法の一つである。

これはジエームス・ハミルトン James Hamilton 1796―1831 が創始したものである。

訓読を主にした変則の教授法が、全く無益有害だと言えるものではない。それは先の新渡戸の言葉によっても証明できる。

しかし何事にも亜流は弊害を生み出してくる。

いたずらな訓読式、訳読式の教授法がいけないのである。無反省な translation method（音声面を重視しない、母国語におきかえることばがりに専念する）、grammar method（文法を演繹的に教える）、さらにはこの二つをいっしょにした grammar-translation method の弊がこわいのである。

しかしながら、残念にもこの弊は珍らしくないものであった。というのは、明治中期になると、そろそろ受験のための英語が重要視されるようになった。

神田乃武は、明治二十九年の（English in Middle School）の中で、上級学校の入学試験に、余り難解な問題が

本文見本
約29%に縮小

（左）櫻井■村著「日本に於ける英語史」より。（右）英語教育発祥百年記念事業委員会編『長崎における英語教育百年史』より。

『英語教育史重要文献集成』第Ⅰ期の収録内容

●第1巻●……………………………小学校英語

今後の小学校英語教育のあり方を考える上で最重要な、文部省著作の小学校用英語教科書と、それに準拠した懇切丁寧な教師用指導書。

文部省［編］

***The Mombushō English Readers For Elementary Schools*（小学校用文部省英語読本）全3巻**

1908年〜1910年 国定教科書共同販売所発行

文部省［編］

小学校用文部省英語読本巻一教授書

1909年 国定教科書共同販売所発行

●第2巻●……………………………英語教授法 1

日本初の英語教授法・学習法書で、英語教授法史における記念碑的な著作。全国の図書館に所蔵されていない貴重文献で、今後の本格的な研究が望まれる。

マーセル［著］吉田直太郎［訳］

外国語研究法　1887年 吉田直太郎発行

●第3巻……………………………英語教授法 2

菊判474頁の最も包括的な英語教授法書でありながら、謄写刷・非売品のため現存10冊程度の幻の名著。英語教育史や小学校教授法の記述も豊富。

柰田與惣之助（まつだよそのすけ）［著］

英語教授法集成　1928年 柰田與惣之助発行

●第4巻●……………………………英語教授法 3

戦前における英語教授法研究の到達点を示す1930〜40年代の文献７篇。東京と広島の両高等師範学校関係者らを中心とした最高レベルの英語教授法と実践が豊富に盛り込まれている。

岡倉由三郎［著］

英語教育（岩波講座教育科学 第8冊所収）

1932年 岩波書店発行

東京高等師範学校附属中学校［編］

各学科教授方針・英語科

1931年 東京高等師範学校附属中学校発行

尚志会［編］

外国語教育の革新

1942年 尚志会発行

中等学校教科書株式会社［著］

外国語科指導書 中等学校第一学年用

1943年 中等学校教科書株式会社発行

櫻井　役［著］

新制中等学校外国語科の教育

（日本放送協会編『文部省 新制中等学校教授要目取扱解説』所収）

1944年 日本放送出版協会発行

中等教育討議会［著］

英語科教授の実際

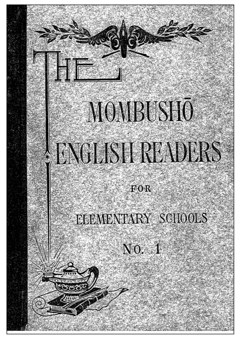
教材の類型より見たる　1939年 東京開成館発行

広島高等師範学校附属中学校英語科［著］

教授要目と教授の実際

1932年 広島高等師範学校附属中学校発行

英國マーセル著
日本吉田直太郎譯
外國語研究法
吉田氏藏版



●第5巻●……………………………英語教育史研究

日本における英学史・英語教育史の研究に関する入手し難い７篇の論考を収録。明治以降の英語教育の歩みを鳥瞰する上で欠かせない文献群である

竹村　覚［著］

日本英学史　1935年 英語英文学刊行会発行

（英語英文学刊行会編『英語英文学講座』第15回配本所収）

定宗数松［著］

日本に於ける英語教授法の変遷

（文部省編『文部時報』第641号所収）

1938年 帝国地方行政学会発行

英語教育発祥百年記念事業委員会［編］

長崎における英語教育百年史

1959年 長崎英語教育百年史刊行委員会発行

花園兼定［著］

明治英学史 1〜21

（世界時潮研究会編『The current of the world』第20巻第5号〜第22巻 第1号所収）

1943年〜1945年 英語通信社発行

定宗数松［著］

日本に於ける英語教授法史

明治二十年より四十五年まで　1938年 英進社発行

（広島文理科大学英語英文学研究室編『英語英文学論文集』第1輯所収）

櫻井　役［著］

英語教育に関する文部法規

1935年 研究社発行

櫻井■村［著］

日本に於ける英語史　1907年 英文新誌社発行

（櫻井彦一郎編『英文新誌（THE STUDENT）』第4巻 第7・8合併号所収）